

歴史は大河を越え——いま、愛が歴史の沈黙を破る!

長城崩えり長江うねる、
 壮大なロマンと
 雄大なスケールで描く、
 日中初の激動のドラマ

日・中国交正常化10周年記念作品

未完の対局

後援 ■ 日本中国友好協会 / 日本中国文化交流協会



製作 ■ 徳間康快・汪 洋 監督 ■ 佐藤純彌・段 吉順
 プロデューサー ■ 佐藤正太・王志敏・周 浩・李 洪洲・董 康同・大野博子・安部憲郎・神波史男



撮影 ■ 安藤庄平・羅 徳安 照明 ■ 野谷秀夫・徐 和慶 美術 ■ 木村威夫・嶋 浜 録音 ■ 藤本文雄・呂 麗昌 音楽 ■ 林 光・江 定仙
 製作 ■ 「未完の対局」製作委員会(特)東光映画 製作協力 ■ 大映映画(特) 協力(特)東洋現像所 中国製作 ■ 北京電影制片廠
 協力 ■ 中国電影合作制片公司 配給 ■ 東宝株式会社 小説「未完の対局」朝里征典著 徳間文庫刊 協賛 ■ 日本航空

193384-202

9月15日(祝) ロードショー!

伊勢丹前シネタウン
 新宿文化シネマ 1
 ☎ 354-2097

未完の対局

製作 ■ 徳間康快・汪 洋
監督 ■ 佐藤純彌・段 吉順



「ごあいさつ」

日中合作映画「未完の対局」製作委員会代表
徳間康快

日中国交正常化十周年を迎えようとする今、両国の政治・経済・文化の交流が、これまでになく大きく進展しており、文化の一翼を担う映画交流を促進するひとりとして、大変嬉しく思っております。これを記念して、かねてより日中双方で進めてまいりました初の合作映画を製作する次第です。私は、この映画の上映を通じて、相互理解が深まり、日中両国の友好関係がより強固になり、子々孫々に引き継がれてゆくことを切に望む次第です。この映画に込められた精神は、必ず両国の人々の賛同を得られるものと確信いたしております。

中国電影合作制片公司代表
李 惟 存
北京電影制片廠 廠長

汪 洋

中日両国の共同出資による合作映画「未完の対局」は、中日両国の三年にわたる共同の努力により、数々の準備工作を経て、具体的な対策を積極的に推進いたし、一九八二年初めに正式にクランクインしました。我々は、中国電影合作制片公司、北京電影制片廠を代表し、この映画の大成功を祈っております。そして、両国人民の友情をテーマとするこの映画を、中日両国のスタッフ全員の努力によって、より質の高い作品を、中日国交正常化十周年に献げようと思っております。

製作意図

この作品は、日中国交正常化十周年（57年9月29日）を記念し、両国間の真の友好と親善を深め、さらには、二度と再びこのような不幸な時代が来てはならないという人々の平和への熱い願いと、警鐘の意味をこめながら、ここに初の日中合作映画を製作するものである。

解説

歴史的にもっとも古くから深い関係を持ってきた日本と中国——しかし、この中にあって、いくつもの不幸な出来事があった。

この映画は、日中十五年戦争を背景にして、日本と中国の二つの家族の出会いと悲劇的運命、そして愛と友情と和解が、両国の美しい風光を舞台に、壮大な一大歴史ドラマとして描かれる。日中の歴史上、初めての本格的な合作映画である。

物語

日本の名棋士松波麟作と中国の江南の棋王と謳われた況易山は、一九二四年、北京で運命的な出会いをした。その二人の対局は官憲により中断させられたが、江南の麒麟児といわれる況の息子阿明は、その天分を伸ばすため、日本の松波のもとに預けられることになった。

メキメキと才能を発揮していく阿明は、松波のひとり娘巴といつしか愛を誓い合う関係となるが、日中戦争の激化のなかで、二人の恋愛関係は、複雑な波紋を周囲に投げかけた天聖位の獲得を契機に、阿明は祖国に帰って銃をとる決意をし、妻の巴を伴って、密航による国外脱出を企てる。しかし、出航を目前に、夜の埠頭で阿明は射殺され、巴は憲兵に逮捕された。

戦後、すべての家族を失った況は、日本への引揚船で、息子阿明の消息をたずねて焼跡の東京を訪ねた。だが、彼を待つに、松波の跡の東京の阿明が、こもあろうに、松波の謀略で国外脱出の際、憲兵に射殺されたという知らせがあった。さらに阿明の妻巴は、発狂した姿で、況の前に現われ、松波も戦死したと聞かされた。やり場のない怒りと絶望のなかで況は、中国へ帰った。

だが実は、松波は生きていた。とはいって、すでに碁は捨てて酒びりの自堕落な生活だった。一九五六年、日中間の民間交流が芽ばえる中で、況のもとに松波の訪中が伝えられた。〈松波は生きていた!!〉すべてを忘れようとする

してきた況にとつて、それは複雑な動揺を況にもたらした。

今や廃墟となった旧況家で、松波と況が再会するや、松波は、誰にもいえなかつた阿明の射殺の真相を告白した。況はただ慟哭するばかりだった。しかし、阿明と巴の遺児華林は、明るく育っていた。その孫娘に促されるように、松波と況は、阿明と巴の遺骨を美し太湖に沈めた。そしていつしか二人は、虚空の盤の上に、三十年前の打ちかけの碁をパチリパチリと打ちはじめていた。

製作ノート

◎構想から三年、脚本に二年を費やし、日本と中国の精鋭スタッフが精魂をかたむけて、撮影期間五ヶ月、全撮影行程一万八千キロ、総製作費十二億円を投じて製作された日中の歴史上、初の本格的な合作映画。

◎中国での日本軍の撮影にあたっては、解放军の全面的協力によって、総勢七、〇〇〇名のモップシオンを敢行、また上海埠頭での日本人引揚者のシオンなど加えると中国でのエキストラ数は延べ十万人に及ぶ。日本での戦後の焼跡鬧市などでのモップシオンでは延べ六、〇〇〇名に及ぶエキストラが動員されている。

◎日本でのロケ地は丹後半島、鎌倉、横浜、横須賀、東京のほか、戦後の鬧市オープンセットは、埼玉県飯沼村に建設。

◎中国でのロケ地は、北京市内、長城（八達嶺）、頤和園（いわけん）、上海市内、無錫（むしゃく）、蘇州、それに外国人にはまだ未開放地である、黎里（れいり）、角直（かくちう）（震沢（しんたく）という古い街並や運河を今に完璧のまま残している町でのロケなど、中国各地でのロケーションが行なわれた。また、日中戦争当時の中国側の門外不出の貴重な記録フィルムを提出され、歴史的な話題も呼んでいる。

製作 ■ 徳間康快
プロデューサー ■ 汪洋

監督 ■ 佐藤純彌

監修 ■ 段吉順

脚本 ■ 李惟存

脚本 ■ 葛洪洲

撮影 ■ 安野靖子

美術 ■ 神波徳安

照明 ■ 熊谷秀夫

録音 ■ 徐和慶

美術 ■ 木村威夫

音楽 ■ 橋本文雄

音楽 ■ 橋本文雄